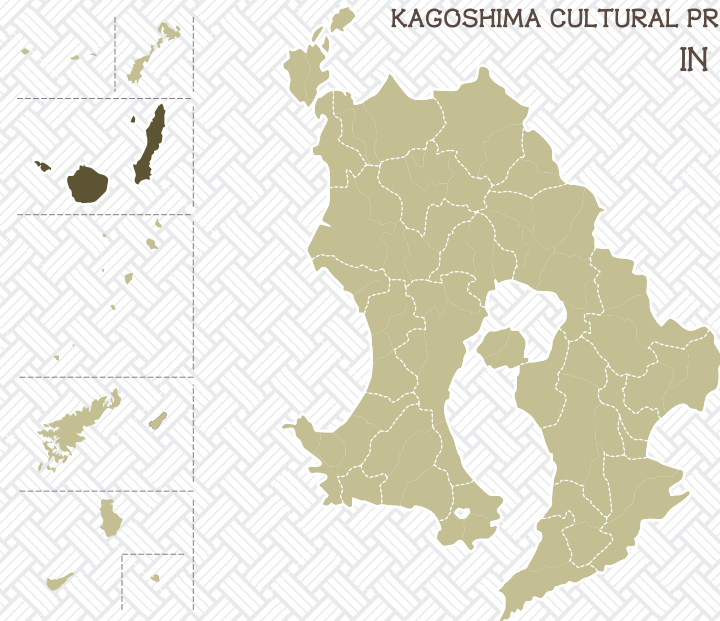


かごしま
文化財
探訪
熊毛地区



かごしま
文化財
探訪
熊毛地区

あなたの知らない鹿児島に
あいにくう。



KAGOSHIMA CULTURAL PROPERTY EXPLORATION
IN KUMAGE AREA

鹿児島
歴史大好きガール
下豊留佳奈さん
オススメ3コース
全22箇所



文化財保護審議会委員
志学館大学教授
原口泉さん 監修



はじめに

鹿児島県教育委員会では、本県に所在する文化財の価値を広く国内外に発信し、本県の魅力を伝えるため、文化財をテーマとした周遊モデルコースを設定し、歴史ガイドブック「かごしま文化財探訪」やPR動画を制作しました。

本書は、今年度対象地区とした熊毛地区におけるテーマごとの周遊モデルコースや、その文化財を掲載したものです。令和元年度から令和3年度にかけて、7地区について作成することとしています。

本県は、九州最南端に位置し、その範囲は奄美群島まで南北約600kmにもわたり、各地で様々な文化が生まれ、現在も数多くの文化財が残されています。本書では、県内の一部の文化財を紹介しておりますが、これを糸口として、県内外の多くの方々が本県の文化財に興味を持ち、探訪していただければ幸いです。

令和4年3月
鹿児島県教育委員会

本ガイドブックをはじめとする「『かごしま再発見！』文化財魅力開花推進事業」の成果物は県のホームページ（下のURL参照）で公開しています。



<https://www.pref.kagoshima.jp/ba08/saihakkenn/bunkazaimiryoku.html>



鹿児島は日本の南端にあり、古くから中国をはじめとするアジア太平洋地域の国々の影響を受けながら特色ある歴史を積み重ねてきました。文化財を探訪することで、鹿児島島の魅力を再発見してみましょう。熊毛地区では、「種子島家の歴史コース」、「史跡巡りコース」、「自然満喫コース」の3つのモデルコースを設定しました。



種子島1日周遊！
「種子島家の歴史コース」



- 赤尾木港の岸岐と築島 P9
- 種子島家墓地 P10
- 種子島家住宅 P11
- 種子島開発総合センター「鉄砲館」 P12
- 松濤庵跡 P13
- 古市家住宅 P14
- 貫門 P15

屋久島1日周遊！
「史跡巡りコース」



- 屋久島灯台 P18
- 永田嶽神社境内磨崖題目 P19
- 檀那墓 P20
- 牛床詣所 P21
- 泊如竹の墓 P22
- 相良市郎兵衛藤原長政の墓 P23
- 西村越前守平時安の墓 P24

種子島・屋久島1泊2日！
「自然満喫コース」



- 坂井神社の大ソテツ P27
- 阿嶽の洞穴 P28
- 種子島阿嶽川のマングロブ林 P29
- 広田遺跡 P30
- 門倉・前之浜自然公園 P31
- ヘゴ自生群落 P32
- 枕状溶岩 P33
- 船行大杉 P34

その他

- その他文化財 P35～
- 季節の見どころ P44～

KAGOSHIMA
CULTURAL PROPERTY
EXPLORATION
IN KUMAGE

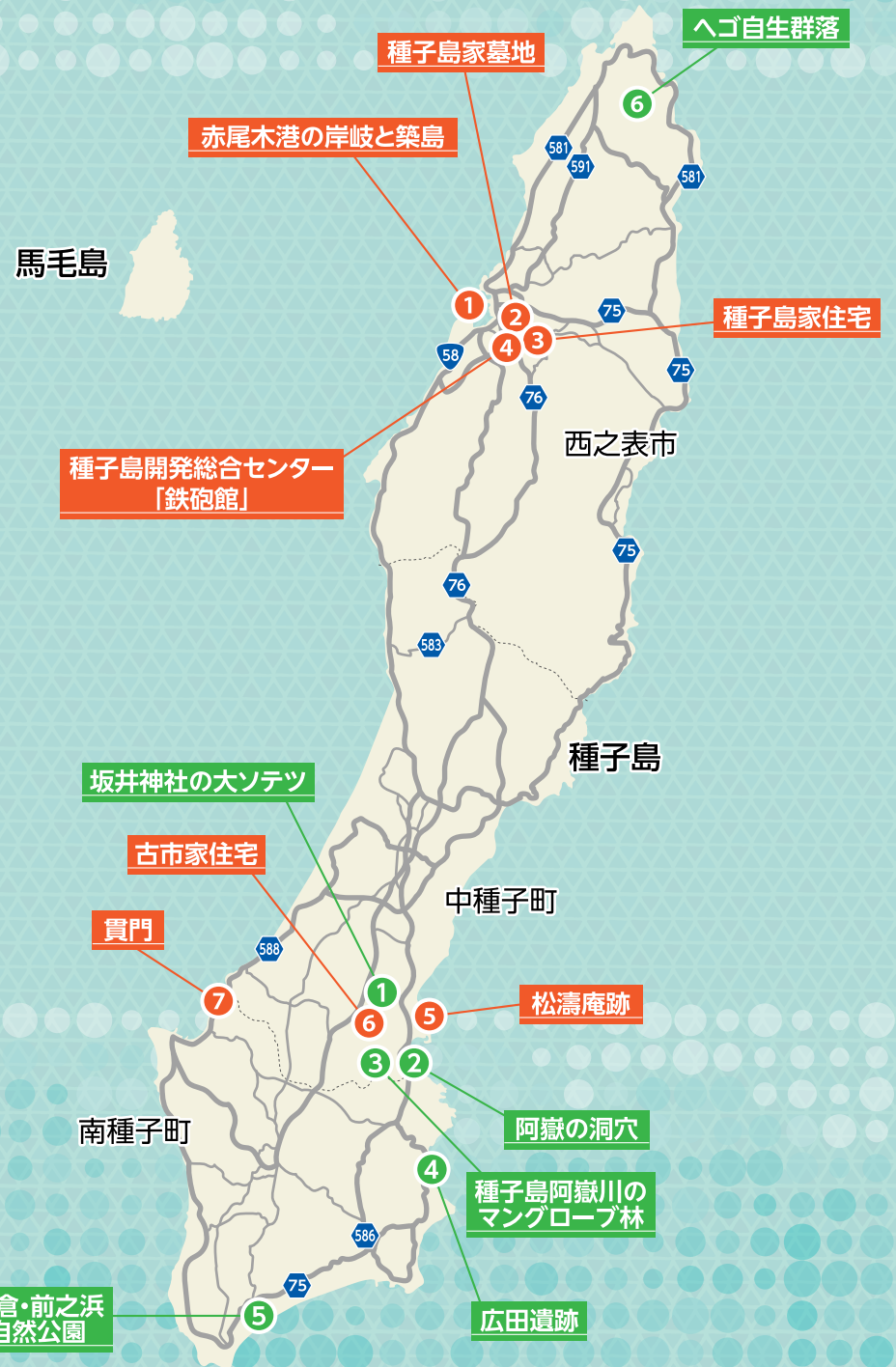
あなたの知らない鹿児島に
あいにいこう。

熊毛
地区

種子島1日周遊！
「種子島家の歴史コース」

屋久島1日周遊！
「史跡巡りコース」

種子島・屋久島1泊2日！
「自然満喫コース」





「種子島家の
歴史コース」

種子島1日周遊!

あなたの知らない鹿児島に
あいにくう。

西之表市・中種子町・南種子町と種子島を一周しながら、歴代島主ゆかりの地や、種子島の歴史を語る上で欠かせない史跡を回るコースです。中でも、第23代島主種子島久道に嫁いだ松寿院に関する文化財を巡るように選定しています。ぜひ、足跡をたどってみてください。

西之表港 発

- 1 赤尾木港の岸岐と築島  約3分
西之表市西町
- 2 種子島家墓地(御拝塔墓地)  約5分
西之表市西之表 7596-1
- 3 種子島家住宅  約3分
西之表市西之表7528  
- 4 種子島開発総合センター「鉄砲館」  約3分
西之表市西之表7585  
- 5 松濤庵跡  約10分
熊毛郡中種子町坂井
- 6 古市家住宅  約10分
熊毛郡中種子町坂井3182  
- 7 貫門  約15分
熊毛郡南種子町島間5187-1

種子島空港 着

 約30分

赤尾木港の岸岐と築島

あかおぎこうのがんぎとつきじま

西之表市指定有形文化財（建造物）



提供：西之表市教育委員会

女殿様の防波堤

第23代島主種子島久道に嫁いだ松寿院は、夫の死後、名跡として島の政治を行い、「女殿様」と呼ばれました。特に力を入れた土木事業のひとつが赤尾木港（西之表旧港）の波止修築です。赤尾木港は海上交通の要所であり、海難事故を減らすために尽力しました。工事は万延元（1860）年に着工し、文久2（1862）年に出来上がりました。その後、改修が行われていますが松寿院がおこなった部分が基礎になっています。

文化財探訪 行ってみてコラム

西之表港（高速船・フェリー発着場）の近くにあります。写真の手前が「沖の岸岐」で、対岸に見えるのが「築島」です。

● 周辺環境



● お問い合わせ先

西之表市教育委員会社会教育課文化財係
（種子島開発総合センター鉄砲館）
鹿児島県西之表市西之表7585
☎ 0997-23-3215

● 所在地

西之表市西町



種子島家墓地（御拝塔墓地）

たねがしまげぼち（おーはーとーぼち）

西之表市指定史跡



おーはーとー 御拝塔墓地

種子島の島主であった種子島家の墓地です。第11代島主ときうじ時氏が、種子島家の菩提寺として法華宗の本願寺を建てた際に、隣接地を代々島主の2番目の墓地と決めました。最初の墓地である「御坊墓地」とともに、「種子島墓地」として文化財指定されています。御拝塔墓地には、鉄砲の国産化を進めた第14代時ときたか義や、第23代久道に嫁いだ松寿院、初代薩摩藩主・島津家久の義母のカタリナ永俊尼などの墓が並びます。

文化財探訪 行ってみてコラム

隣接する栖林神社は、第19代せいりん島主ひさもと久基を祭った神社です。
松寿院しょうじゅいんが建立しました。

● 周辺環境



● お問い合わせ先

西之表市教育委員会社会教育課文化財係
（種子島開発総合センター鉄砲館）
鹿児島県西之表市西之表7585
☎ 0997-23-3215

● 所在地

西之表市 7596-1



種子島家住宅

たねがしまけじゅうたく

西之表市指定有形文化財（建造物）



提供：西之表市教育委員会

赤尾木城文化伝承館「月窓亭」

江戸時代中期に建てられた種子島家の家臣羽生家の屋敷で、明治19年、第27代島主種子島守時をこの屋敷に迎え入れたことから「種子島家住宅」と呼ばれています。現在は、市が所有し、赤尾木文化伝承館「月窓亭」として一般公開しています。屋敷内には、将軍家から島津家に賜り、第9代薩摩藩主・島津斉宣の二女於隣(後の松寿院)が種子島家に興入れする際、種子島家に賜ったとされる生き人形「山の井様」が展示されています。

文化財探訪
行ってみてコラム

この屋敷で華道の修行を重ねた羽生慎翁は、池坊大日本総会頭職を務めるなど、いけばな文化の全国普及に貢献した人物です。

● 周辺環境



● お問合せ先

赤尾木城文化伝承館「月窓亭」
鹿児島県西之表市西之表 7528
☎ 0997-22-2101

● 所在地

西之表市西之表7528



種子島開発総合センター「鉄砲館」

たねがしまかいはつそうごうせんたー「てっぽうかん」

県指定及び西之表市指定文化財を多数展示



提供：西之表市教育委員会

種子島家と鉄砲伝来

種子島開発総合センター「鉄砲館」は、種子島の歴史・文化・自然など総合的に学べる博物館です。鎌倉時代、初代島主信基が種子島を含む南海十二島の領主となった際に北条時政から与えられたと伝わる「太刀(国宗)」をはじめ、1543年の鉄砲伝来に関連する「種子島銃(ポルトガル初伝銃)」や国産第一号銃「伝八板金兵衛清定作火縄銃」など、多くの指定文化財が展示されています。

文化財探訪
行ってみてコラム

鉄砲伝来の物語を伝える人形劇(回転ジオラマ)は35年以上の歴史があり、名物となっています。

● 周辺環境



● お問合せ先

西之表市教育委員会社会教育課文化財係
(種子島開発総合センター鉄砲館)
鹿児島県西之表市西之表7585
☎ 0997-23-3215

● 所在地

西之表市西之表 7585



松濤庵跡

しょうとうあんあと

中種子町指定有形文化財（建造物）



熊野権現擁護寺

熊野山にある松濤庵は、天保9(1838)年に松寿院(第23代島主種子島久道夫人)が建立しました。上段・下段と建物があったとされ、現在は上下段の石垣と建物の基礎と考えられる礎石が残っているのみです。松寿院は、久道没後に度々滞在していました。信仰が厚く、僧を置き勤行させ、多くの神具を奉納したといわれています。松濤庵跡に行くには、熊野神社入口から山道を70mほど歩く必要があります。歩きやすい服装で行くようにしてください。

文化財探訪
行ってみてコラム

熊野権現山の山中に静かに佇む松濤庵跡には松寿院の種子島に対する熱い思いが感じられます。

● 周辺環境



● お問い合わせ先

中種子町教育委員会社会教育課
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233

● 所在地

熊毛郡中種子町坂井



WALK



古市家住宅

ふるいちけじゅうたく

国指定重要文化財（建造物）



郷士の住宅

種子島氏に仕え、坂井村で庄屋や横目などを務めた古市源助が建てた種子島に現存する最古の類に属する住宅です。棟札から弘化3(1846)年に建てられた事が分かっています。座敷と土間からなる、L字型の建物です。江戸時代の建築技術である手斧で調整された梁や、和釘・竹釘が使われています。平成13年・14年に保存修復工事が行われ、創建当時の姿に復元されました。実際に屋敷の中に入り見学をすることができます。

文化財探訪
行ってみてコラム

周囲の環境も良く、歴史的価値が高いとして平成6年に国の重要文化財に指定されました。

● 周辺環境



● お問い合わせ先

中種子町教育委員会社会教育課
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233

● 所在地

熊毛郡中種子町坂井 3182



P



貫門

ぬきもん

南種子町指定史跡



水軍の功績を称える門

貫門は、2本の柱を立て上部をくりぬき、貫(柱と柱の間を横に貫いてつなぐ部材)を通した門です。この型の門は、島主の許可がなければ立てられないものです。稲子泊にある貫門は、漁家に生まれた網切吉右衛門の戦功により立てられました。慶長2(1597)年の朝鮮出兵の際、16代島主種子島久時率いる島津軍の水手(船員)として従軍し功績を挙げました。帰島後、その功績を後世に伝えるため、久時より代々貫門を立てることを許可され、網切という名字と帯刀を許されることになったといわれています。

文化財探訪
行ってみてコラム

茎永の小田家も貫門を立てることを許可されていましたが、現存していません。

● 周辺環境

- お問い合わせ先
南種子町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1
☎ 0997-26-1111
- 所在地
熊毛郡南種子町島間 5187-1



「史跡巡りコース」

屋久島1日周遊!

あなたの知らない鹿児島に
あいにくう。

屋久島に点在する史跡を巡るコースです。時間に余裕のある方は、史跡を巡りながら島をぐるっと1周されても面白いです。島全体の約20%が世界自然遺産に登録されている屋久島。豊かな自然と密接に関わる歴史に触れてみましょう。

宮之浦港 発

1 屋久島灯台 約42分
熊毛郡屋久島町永田 P

2 永田嶽神社境内磨崖題目 約15分
熊毛郡屋久島町永田2797

3 檀那墓 約32分
熊毛郡屋久島町宮之浦1553-3

4 牛床詣所 約5分
熊毛郡屋久島町宮之浦 P

5 泊如竹の墓 約30分
熊毛郡屋久島町安房

6 相良市郎兵衛藤原長政の墓 約25分
熊毛郡平内大山

7 西村越前守平時安の墓 約10分
熊毛郡平内大山

宮之浦港 着 なら 約60分

KUMAGE

1.

屋久島灯台

やくしまとうだい



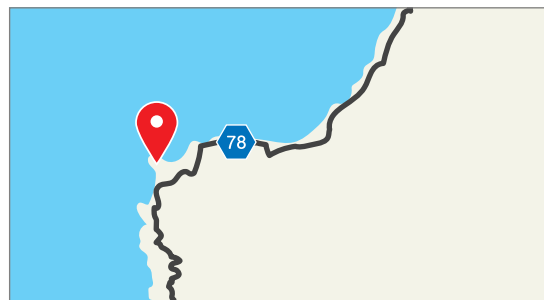
国登録有形文化財（建造物）

海の安全を守る白亜の灯台

屋久島の北西部の永田岬にある灯台です。明治30(1897)年、台湾航路整備のために陸軍省が設置した台湾航路8灯台のうちの一つです。レンガ・石造りで、高さは約20mあります。灯台の中に入ることはできませんが、外観の見学は自由にできます。灯台越しの海も、灯台側からみた屋久島の山々も絶景です。また、灯台とともに建設された周囲の石堀も登録有形文化財です。屋久島産の花崗岩を三段に積んだ上にレンガを積んだ、過酷な自然環境に対応するつくりになっています。

文化財探訪
行ってみてコラム

運が良ければ、沖合にイルカ
やクジラが見られるかもしれ
ません!



● 周辺環境



● お問合せ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20
☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡屋久島町永田



永田嶽神社境内磨崖題目

ながただけじんじゃけいだいまがいでいもく



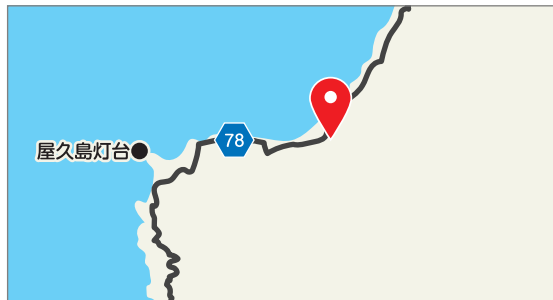
屋久島と日蓮宗

花崗岩の巨石に「南無妙法蓮華經」の文字が刻まれています。これは「ひげ題目」と呼ばれるものです（筆端を髭のように四方にのびして題目を書いたもの）。寛正6（1465）年の種子島の日蓮宗布教を契機に、屋久島でも信仰されたことを示します。種子島の日蓮宗布教については、中種子町の史跡に指定されている日良法印御墓所（その他の文化財）を参照してください。永田嶽神社の磨崖題目は、廃仏毀釈後も損傷が少なく貴重です。

文化財探訪 行ってみてコラム

永田嶽を望む地であり、古くは山岳信仰の聖地であったと考えられています。

● 周辺環境



● お問合せ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20
☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡屋久島町永田2797



檀那墓

だんなばか



薩摩藩士の墓石群

檀那墓は、薩摩藩士と僧侶の墓のことです。屋久島統治のため、藩から薩摩藩士（大部分は城下士）が派遣されました。中にはこの地で没し、九本寺などで葬儀がおこなわれて格式に応じた墓石が建てられました。相当数の墓があったと伝わりますが、無縁墓となったり破損したりしてしまい、現在の数が残るのみとなりました。九本寺横の墓地の中にありますので、九本寺の法華經三千部供養塔・島津義久第七回忌供養塔・正徳五年銘石灯籠（その他の文化財）と一緒に見学されてください。

文化財探訪 行ってみてコラム

屋久島代官は、寛永12（1635）年に宮之浦に設けられました。

● 周辺環境



● お問合せ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20
☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡屋久島町
宮之浦1553-3



牛床詣所

うしどこもいしょ

屋久島町指定史跡



信仰の聖地

詣所とは、信仰の場のことです。詣所内には、疫病退散・大漁祈願・安全祈願などの石塔が奉納されています。山岳信仰の行事である「岳参り(山の神の一品宝珠大権現にお参りをする行事)」の際に、家族が山に詣でた男たちを出迎えた場所です。女人禁制のため、岳参りに参加できない女性や子どもがこの地で山を拜んでいました。石塔から、日蓮宗布教後は神仏混合へ移り変わったことが分かります。

文化財探訪
行ってみてコラム

九州最高峰の宮之浦岳をはじめ、険しい山の多い屋久島は、古くから山岳信仰の島でした。

● 周辺環境



● お問合せ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20

☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡屋久島町宮之浦



泊如竹の墓

とまりじょちくのはか

県指定史跡



屋久聖人の廟

泊如竹は、屋久島町安房出身の儒学者です。日蓮宗本仏寺に入り修行し、やがて兵庫の本興寺と京都の本能寺でさらに修行しました。京都では儒学者の藤原惺窩せいゝかに師事し朱子学を学び、鹿児島に帰ると南浦文之なんぽぶんしの門に入り、如竹と名を改めました。第19代島津氏当主・光久の侍講として仕え、晩年は屋久島に戻り、安房に飲料水の水道をつくったり、農業の改良に努めたりしましたが明暦元(1655)年に87歳で亡くなりました。如竹の命日の旧暦5月25日には、墓前で県の無形民俗文化財に指定されている「如竹踊り」が奉納されます。

文化財探訪
行ってみてコラム

泊如竹がつくった用水路「如竹堀」は、町の史跡に指定されています。

● 周辺環境



● お問合せ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20

☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡屋久島町安房



相良市郎兵衛藤原長政の墓

さがらいちろうべえぶじわらながまさのはか

屋久島町指定史跡



だんなじいが墓

市郎兵衛は、薩摩藩江戸藩邸の御庭奉行をしていた人物です。嘉永2(1849)年、お由羅騒動に連座して屋久島に隠居を命じられました。嫡子は大島に流されています。お由羅騒動とは、10代藩主島津斉興の後継者として、島津斉彬派と島津久光派が対立した御家騒動のことです。嘉永朋党事件、高崎崩れ、近藤崩れともいいます。市郎兵衛は、平内では「ダンナジイ」と敬称され、養子を迎えて相良姓を継がせました。

文化財探訪
行ってみてコラム

墓に隣接して、町指定天然記念物のカンノンチク(観音竹・亜熱帯性植物でヤシの仲間)が群生しています。

● 周辺環境



● お問い合わせ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20

☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡平内大山



西村越前守平時安の墓

にしむらえちぜんのかみたいらときやすのはか

屋久島町指定史跡



代々種子島氏の要職を務める西村家

時安は、種子島第14代島主時堯と16代久時に家老として仕えた人物です。墓は、平内八幡山にあります。豊臣秀吉が朝鮮に兵を出した文禄の役後に倒れ、療養のために平内の温泉へ湯治に来ていました。しかし、慶長4(1599)年に滞在中に亡くなってしまい、八幡山に葬られました。墓碑は享保14(1729)年に死後130年を経て建立されました。西村家10代時安を称え、16代時之が建立したものです。

文化財探訪
行ってみてコラム

墓は、町指定天然記念物のカンノンチク横の道から八幡山の方へ進むとあります。

● 周辺環境



● お問い合わせ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20

☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡平内大山



WALK



「自然満喫コース」

種子島・屋久島1泊2日！



あなたの知らない鹿児島に
あいにくう。

亜熱帯気候の種子島と、世界自然遺産に登録されている屋久島、それぞれ特有の風土に触れることができるコースです。日本一のソテツにマングローブ林、ヤクスギなど、本土では見ることのできない景色が広がっています。ぜひ、自然のエネルギーを体感してください！

●1日目 西之表港 発

- 1 坂井神社の大ソテツ  約45分
熊毛郡中種子町坂井3576
- 2 阿嶽の洞穴  約5分  
熊毛郡中種子町坂井5532-1
- 3 種子島阿嶽川のマングローブ林  約5分 
熊毛郡中種子町坂井
- 4 広田遺跡  約10分  
熊毛郡南種子町平山2571
- 5 門倉・前之浜自然公園  約20分  
熊毛郡南種子町西之
- 6 へゴ自生群落  約1時間30分 
西之表市国上(太田)

●2日目 宮之浦港 発

- 7 枕状溶岩  約25分
熊毛郡屋久島町船行246-1
- 8 船行大杉  約10分
熊毛郡屋久島町船行字出口ノ上9-2

安房港 着 なら

 約5分

坂井神社の大ソテツ

さかいじんじやおおそてつ

中種子町指定天然記念物



提供：中種子町教育委員会

日本一の大ソテツ

坂井神社(豊受神社)の境内に植えられている、巨大なソテツです。葉は硬く光沢があり立派です。雌株のソテツは樹高約7m、樹長約10m、根周りは約2mあります。高さは日本一とされています。いつ植えられたかはっきりと分かっていませんが、樹齢700年以上ではないかといわれています。ソテツは鉄を好み、衰弱した時に鉄分を与えると回復するといふ伝えが「蘇鉄」の名の由来とされています。

文化財探訪
行ってみてコラム

併設された櫓に上ってソテツを見ると、いかに大きなソテツが体感できます！

● 周辺環境



● お問い合わせ先

中種子町教育委員会社会教育課
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233

● 所在地

熊毛郡中種子町坂井 3576
(坂井神社内)



阿嶽の洞穴

あだけのどうけつ

中種子町指定史跡



昭和33年に発見された洞穴

莖永層と呼ばれる高さ10mの砂岩の山で、洞穴の規模は、幅約15m、入口の高さ約3.5m、奥行き約5mあります。約30種の貝、シカやイノシシなどの獣骨、ブダイなどの魚骨、鳥骨、ウミガメの骨、生活に使用したと考えられる石器類や弥生式の土器などが出土しています。目の前が海、後背地は阿嶽川を中心とした穀倉地帯という立地から、縄文時代のような採取生活と、進んだ栽培生活を営むための場として利用されていたと考えられます。

文化財探訪
行ってみてコラム

砂岩の山に残る洞穴からは弥生人の生きるパワーを感じます！

● 周辺環境



● お問い合わせ先

中種子町教育委員会社会教育課
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233

● 所在地

熊毛郡中種子町坂井 5532-1
(自然レクリエーション村 南側)



種子島阿嶽川のマングローブ林

たねがしまだけがあわのまんぐろーぶりん

国指定天然記念物



提供：中種子町教育委員会

メヒルギの群落

阿嶽川河口付近に分布するマングローブは、メヒルギで群落を成しています。種子島は、メヒルギの自然分布として北限にあたります。群落の規模は、右岸側約400m、左岸側約450mです。シオマネキ(カニ)や、12月下旬～3月下旬はハマジンチョウ(浜沈丁)の花、7～8月はハマボウの花など、貴重な動植物を見ることができます。「マングローブ・ビューなかたね」がビュースポットです。

文化財探訪
行ってみてコラム

メヒルギの群落内には遊歩道が設けられており、貴重な動植物を間近に観察することができます。



● 周辺環境



● お問い合わせ先

中種子町教育委員会社会教育課
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233

● 所在地

熊毛郡中種子町坂井



広田遺跡

ひろたいせき

国指定史跡

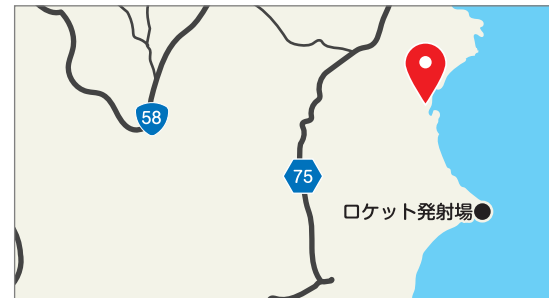


多彩な貝文化

弥生時代後期～古墳時代にかけて、海岸の砂丘につくられた集団墓地遺跡です。合葬を含む90ヶ所の埋葬遺構から157体の人骨が出土しました。人骨の多くは、貝の装飾品が身につけられていました。また、多量の貝製品を墓に副葬しており、4万4千点以上の貝製品などが発見されています。未調査の墓も残っており、大規模な墓地であったことが分かります。史跡の広田遺跡公園に隣接する広田遺跡ミュージアムでは、出土品や模型・映像などの展示で遺跡の特徴を分かりやすく学ぶことができます。

文化財探訪
行ってみてコラム

広田遺跡の出土品は国の重要文化財に指定されています。貝符・貝輪・貝匙など多くの貝製品が出土しました。



● 周辺環境



● お問い合わせ先

中種子町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1
☎ 0997-26-1111

● 所在地

熊毛郡南種子町平山 2571



門倉・前之浜自然公園

かどくら・まえのはましぜんこうえん

南種子町指定名勝



鉄砲伝来の舞台にもなった美しい風景

種子島の最南端・門倉岬から北に湾曲して、種子島宇宙センターへと続く海岸一帯が門倉・前之浜自然公園です。景色が1日に7度、そして季節ごとに7度変わるといわれていることから「七色の海岸」と呼ばれています。西側に目を向けると、屋久島を望むことができます。門倉岬沖は黒潮が流れ、様々なものが流れ着き歴史の舞台となりました。天文12(1543)年には異国船が漂着し、鉄砲が伝えられています。

文化財探訪
行ってみてコラム

門倉岬や七色坂展望所が
ビュースポットです。



● 周辺環境



● お問い合わせ先

南種子町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1

☎ 0997-26-1111

● 所在地

熊毛郡南種子町西之



へゴ自生群落

へごせいぐんらく

西之表市指定天然記念物



まるで太古の恐竜が棲む森のよう

へゴは、熱帯や亜熱帯に生息するシダ植物の一種で、大きいものは茎の高さが4m、葉の長さ2mを超える大型の木生シダです。国上太田のへゴ自生群落は、生息域の中央に約1kmの林道があり、より近くで巨大なへゴを見ることができ、写真撮影スポットとしても人気があります。また、近くの湊川下流では、樹高最大級かつ北限域の「メヒルギ自生群落」を見ることができます。(36ページ参照)

文化財探訪
行ってみてコラム

屋久島と種子島にのみ自生
するヤクタネゴヨウマツを、
へゴ自生群落内で見ることが
できます。



● 周辺環境



● お問い合わせ先

西之表市教育委員会社会教育課文化財係
(種子島開発総合センター鉄砲館)
鹿児島県西之表市西之表7585

☎ 0997-23-3215

● 所在地

西之表市国上(太田)



枕状溶岩

まくらじょうようがん

屋久島町指定天然記念



田代海岸に広がる溶岩

枕状溶岩（俵状溶岩）は、海底山脈から海中で吹き出した溶岩が、海水で急速に冷やされて固まることによりできます。永久保集落の田代海岸にある枕状溶岩は、暗緑色から赤紫色をしていて、枕（俵）を積み重ねたような堆積構造がはっきりしています。約4000万年前にはるか太平洋で出来たものが、太平洋プレートの運動によって、長い年月をかけて移動してきたものと考えられます。

文化財探訪
行ってみてコラム

種子島南種子町の上立石海岸の枕状溶岩も、町の天然記念物に指定されています。

● 周辺環境



● お問合せ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20

☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡屋久島町船行246-1



船行大杉

ふなゆきおおすぎ

屋久島町指定天然記念物



船行のシンボル

船行神社境内にある大杉は、屋久島の人里にある杉としては最大級です。昭和12(1937)年に、本殿・拝殿の改築のために大杉を伐採したところ、年輪は600年を超えていたとされています。平成10(1998)年におこなわれた日本樹木医会の調査によると、境内の木は「外観的にもまた歴史の見地からもすべてヤクスギと判断される」という見解が示されています。

文化財探訪
行ってみてコラム

船行神社は、お産の神様が祀られています。十五夜綱引きの際は、境内で綱打ちが行われます。

● 周辺環境



● お問合せ先

屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20

☎ 0997-43-5900

● 所在地

熊毛郡屋久島町船行
字出口ノ上9-2





「その他文化財」

あなたの知らない鹿児島に
あいにいこう。

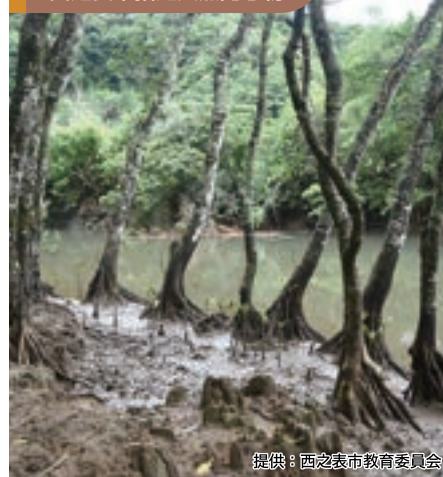
他にも、種子島・屋久島それぞれに魅力的な文化財が数多く残されています。特に、地域に伝わる祭りや伝統芸能は開催日が決まっているため、開催に合わせて何度でも足を運んでください。きっと素敵な出会いが待っています！

メヒルギ自生群落

めひるぎじせいぐんらく

国内で樹高最大級のメヒルギ

西之表市指定天然記念物



提供：西之表市教育委員会

湊川下流(国上)に自生しているメヒルギです。樹齢約80~100年、樹高約7~8mほどの大きな高木が見られます。メヒルギは常緑の高木で、泥土の地に適した好塩性の熱帯植物です。初夏に白い花を咲かせます。種子島では、他にも現和・浜田・広田に自生地が見られます。見学される際は、潮が引いている時がオススメです。国上には、11月頃に花を咲かせる天然記念物のヤッコソウも自生しています。

- お問合せ先
西之表市教育委員会社会教育課文化財係
(種子島開発総合センター鉄砲館)
鹿児島県西之表市西之表7585
☎ 0997-23-3215
- 所在地
熊毛郡南種子町平山



御種子蒔石

伝説・稲作発祥の地

おたねまきいし

西之表市指定有形民俗文化財



御種子蒔石は、浦田神社の境内にある平らな巨石(450cm×250cm)です。祭神のウガヤフキアエズノミコトが巨石の上から稲の種子(白米)を蒔き、稲作が全国に広まったといわれています。南種子町の宝満神社と対をなす神社であり、宝満神社の赤米が絶えた際に浦田神社の白米を宝満神社へ持って行くと赤米になり、宝満神社の赤米を浦田神社へ持って行くと白米になると伝わります。

- お問合せ先
西之表市教育委員会社会教育課文化財係
(種子島開発総合センター鉄砲館)
鹿児島県西之表市西之表7585
☎ 0997-23-3215
- 所在地
西之表市国上345



旧上妻家住宅主屋

種子島家の筆頭家老・上妻氏の家

きゅうこうづまけじゅうたくしゅおく

国登録有形文化財（建造物）

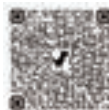


提供：西之表市教育委員会

旧上妻家住宅は、西之表麓の南西に位置する江戸時代末期に作られた住宅です。見通しのよい小高い丘の上に建っています。主屋は南北2列に並んでおり、南側が接客用座敷、北側が居室です。敷地内に植えられたソテツと相まって、南国の武家屋敷の構えを示しています。また、旧上妻家住宅門も登録有形文化財です。主屋同様、江戸末期に作られました。木造・瓦葺で、間口は約2mあります。住宅内から、数多くの貴重な古文書等が発見されており、上妻家史料として注目されています。

● お問合せ先

西之表市教育委員会社会教育課文化財係
(種子島開発総合センター鉄砲館)
鹿児島県西之表市西之表7585
☎ 0997-23-3215



● 所在地

西之表市西之表9819

漣痕 波の痕

れんこん

西之表市指定天然記念物



漣痕とは、砂岩または砂質の岩石の地層面に残っているさざ波状のでこぼこのことで、風の漣痕、水流の漣痕というものがあります。西之表市の漣痕は、数千万年前に堆積した熊毛層群の地層面に、浅海で海水がゆれ動くさざ波の形がそのまま残り、その後地殻変動により、地層が垂直になったものと考えられます。漣痕は、砂紋やリップルマークということもあります。

● お問合せ先

西之表市教育委員会社会教育課文化財係
(種子島開発総合センター鉄砲館)
鹿児島県西之表市西之表7585
☎ 0997-23-3215



● 所在地

西之表市住吉（国道58号沿い）

ガジュマル防潮林

生活を守るガジュマル

がじゅまるぼうちょうりん

西之表市指定天然記念物



ガジュマルは、くわ科の常緑高木です。雌雄異株で、枝から多数の気根を垂らします。南西諸島、沖縄、台湾、熱帯地方に生育しています。住吉漁港近くのガジュマル防潮林は、明治初年に防風、防潮、護岸のため、沖縄より移植したと伝えられていて、樹齢は100年以上あります。ガジュマルの名前は、「かぜまもる」が由来だといわれており、防潮林として活躍しています。

● お問合せ先

西之表市教育委員会社会教育課文化財係
(種子島開発総合センター鉄砲館)
鹿児島県西之表市西之表7585
☎ 0997-23-3215



● 所在地

西之表市住吉

日良法印御墓所

法華宗を広めた日良聖人

にちりょうほういんごぼしよ

中種子町指定史跡



日良聖人は、永享3(1431)年に淡路島で生まれました。寛正6(1465)年に種子島に来島し、浄光寺を建て法華宗の布教をおこないました。明応4(1495)年、法難の地「坂井浄光寺」に逆修の墓石を自ら刻して入寂しました。日良聖人の墓地跡は現在の坂井神社前にありますが、昭和57(1982)年に発掘され、その御真骨は現在の浄光寺田島坊に納められています。

● お問合せ先

中種子町教育委員会社会教育課
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233



● 所在地

熊毛郡中種子町坂井 306-7

提供：中種子町教育委員会

戸畑の煙突

太平洋戦争の面影を残す煙突

とばたのえんとつ

中種子町指定有形文化財（建造物）



九州海軍航空隊種子島基地跡に残る烹炊所の煙突です。煙突はレンガ造りの六角柱で、下部の1辺が75cm、高さは10mあります。周囲にはかまど跡や浴槽跡が残っており、炊事場と風呂場の煙突ではないかといわれています。飛行場周辺にトンネルを掘り、弾薬や軍備品、兵舎、病舎、格納庫などがつくられましたが、終戦前の空襲で地上の施設はほぼ破壊、解体されてしまいました。周囲にある掩体群跡、弾薬庫跡や航空基地作戦室、井戸跡なども一緒に見学されてください。

● お問合せ先

中種子町役場 社会教育課文化係
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233



● 所在地

熊毛郡中種子町増田

大平橋

種子島に残る単一アーチ石橋

たいへいはし

中種子町指定有形文化財（建造物）



西之表と中種子を結ぶ県道工事に伴い造られた橋で、昭和2(1927)年9月6日に竣工しました。桜島の石工によって架橋された一連アーチ型の石橋です。橋長15.6m、橋幅4.8m、拱矢(基礎から要石の下側までの高さ)9.4m、径間10.65mあります。現在は道として利用されていませんが、国道58号線の改良に伴うコンクリート製の新大平橋が架橋されるまで、県道・農道として多くの地域住民の暮らしを支えてきました。

● お問合せ先

中種子町役場 社会教育課文化係
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233



● 所在地

熊毛郡中種子町納官

平鍋の化石

海中で堆積した堆積物からなる海成層

ひらなべのかせき

中種子町指定天然記念物



平鍋化石公園内にあります。平鍋地区の農道整備の際に旧道に散在していた化石が残る岩塊を集めたものです。硬い砂岩の中に、ペクテン、イタヤガイ、アナダラや二枚貝・巻貝が多数含まれています。これらの化石を含む砂岩は、貝のカルシウムが溶け、まわりの砂を固めて岩塊になったと考えられます。この化石を含む地層は、熊毛層群・茎永層群を覆う増田層と呼ばれるもの、今から約100万年前の地層とされています。南種子町田代にも同様のものが見られます。

● お問合せ先

中種子町役場 社会教育課文化係
(中種子町歴史民俗資料館)
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173-2
☎ 0997-27-2233



● 所在地

熊毛郡中種子町納官

枕状溶岩

表面がひび割れた黒色の緻密な岩石

まくらじょうようがん

南種子町指定天然記念物



枕状溶岩(俵状溶岩)は、約5600万年～約2300万年前に堆積した熊毛層群の中に見られる溶岩です。上立石海岸の波打ち際、約10m四方の狭い範囲に見られます。直径約50～80cmの楕円体に近い丸みを帯びた塊が集まっています。海底山脈から海中で吹き出した溶岩が、海水で急速に冷やされて固まることを繰り返してできたため、枕(俵)を積み重ねた形をしています。枕状溶岩から、当時の種子島は海中であったことが分かります。

● お問合せ先

南種子町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1
☎ 0997-26-1111



● 所在地

熊毛郡南種子町西之3302

松寿院の川直しの碑及び水天之碑 女殿様の土木事業

しょうじゅいんのかわなおしひおよびすいてんのひ

南種子町指定有形文化財(歴史資料)



川直しの碑は、大浦川の川直しを行った松寿院の業績を称え、万延2(1861)年に建てられました。当時、平山から熊野へ行く道は、潮が満ちると人馬の通行が困難で、満潮時には海から潮が入り農作物も塩害を受けていました。松寿院は、蛇行している川をまっすぐにし、川幅を広げる工事を行いました。この工事は安政4(1857)年に完成し、満潮時の害を防ぎ、荒れ田であったものが立派な美田となりました。翌年2月に、水天之碑が建立されました。

- お問合せ先
南種子町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1
☎ 0997-26-1111
- 所在地
熊毛郡南種子町平山 4257 番地



岩穴 集落民のコミュニケーションの場

いわな

南種子町指定史跡



岩穴は、種子島に古くから伝わる乾燥浴「岩穴焚き」が行われた場所です。岩穴焚きは、今でいうサウナ風呂のようなもので、農閑期に行われ、民間入浴療法として親しまれてきました。10～15日の療養期間で、破傷風・神経痛・リュウマチ等に効果があったといわれています。岩穴焚きの方法は、まず中で火を焚き全体を暖め、次に穴の中央に残り火を集め、その周囲に小枝や柴、ゲットウの葉、バショウの葉などを敷きつめ、葉の上に座ります。最後に藁で作った蓋で入口を密閉し、発汗を促します。昔は集落ごとにあったと伝わります。

- お問合せ先
南種子町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1
☎ 0997-26-1111
- 所在地
熊毛郡南種子町平山 2691-1



益久神社仁王像 上半身裸体の剛健な仁王像

やくじんじゃにおうぞう

屋久島町指定有形文化財(歴史資料)



益久神社の境内にあります。天保2(1831)年に宮之浦在住の近藤濱市と嫡子の市助により寄進された仁王像です。凝灰岩でできています。かつては島内の各地に仁王像がありましたが、廃仏毀釈により損傷を受けたため、現在は牛床詣所と益久神社の仁王像が原形を保っているのみです。近くには、同じく町の有形文化財に指定されている益久神社手水鉢があります。

- お問合せ先
屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田 849 番地 20
☎ 0997-43-5900
- 所在地
熊毛郡屋久島町宮之浦277



楠川城跡 南島航路上の要所

くすかわじょうあと

屋久島町指定史跡



楠川城は、楠川港近くという利点のある山城です。大永4(1524)年に、種子島忠時によって築城されました。城跡は三つの曲輪からなります。大手が直接海岸に繋がっていて、種子島と屋久島を結びつける位置にあり、種子島からの兵糧などをすぐに運べるという利便性がありました。楠川城は、禰寝氏と種子島氏との戦いである禰寝戦争の舞台でもありません。日本で初めて火縄銃が実戦に使用されたという説もあります。

- お問合せ先
屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田 849 番地 20
☎ 0997-43-5900
- 所在地
熊毛郡屋久島町楠川



法華經三千部供養塔・ 島津義久第七回忌供養塔・ 正徳五年銘石灯籠

九本寺にある文化財

ほけきょうさんぜんぶくようとう・しまづよしひさだいななかいきくようとう・しょうとくごねんめいしどうろう

屋久島橋町指定有形文化財(歴史資料・建造物)



法華經三千部供養塔は、山川石でつくられた読誦塔です。成弁という僧侶により建てられました。島津義久第七回忌供養塔は、第16代島津氏当主・義久の七回忌の供養塔です。供養塔から、法華經を3万回読誦して供養したと考えられます。正徳五年銘石灯籠は、花崗岩でつくられた石灯籠です。誰によって造られ、寄進されたかは分かっていません。いずれも久本寺の境内にあります。

- お問合せ先
屋久島町教育委員会社会教育課
鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田 849 番地 20
☎ 0997-43-5900

- 所在地
熊毛郡屋久島町
宮之浦1553-3



季節の見どころ

春

宝満神社の御田植祭 赤米のお祭り

ほうまんじんじやおたうえまつり

国指定無形民俗文化財



宝満神社では、赤米を神米とし、毎年4月3日頃にその年の豊作を祈願して赤米の御田植祭を行います。宝満神社は玉依姫を祀っており、玉依姫が龍宮から五穀の種子を持参して種子島に蒔いたと伝えられています。古代米の赤米は「オイネ」と呼ばれ、古くから神田に植える習わしです。御田植は、お田植歌に合わせて男子だけで行われます。御田植が終ると、御田植舞いの奉納をし、参加者全員で直会がおこなわれます。

春

下中八幡神社御田植祭 下中の豊作祈願

しもなかはちまんじんじやおたうえまつり

南種子町指定無形民俗文化財



下中八幡神社で毎年3月に御田植祭が行われています。種子島で御田植祭が伝承されているのは、釜永の宝満神社と並び2ヶ所のみです。祭は、まず夜明け前の潮井(海砂をタマシダや竹の笹で包んだもので、魔よけや神域を清めるために使う)取りから始まります。その後、神社で神事が行われ、神社横の御神田で御田植をおこないます。御田植の前には、ガマオイジョウ姿(老人が神の化身のガマガエルになった姿)の社人が歌う田植え歌に合わせ、御田植舞を奉納します。そして、御田植が終わると参加者全員で直会がおこなわれます。

夏

西之表市横山の盆踊り 横山に伝わる悲しい恋物語

にしのおもてしよこやまのぼんおどり

県指定無形民俗文化財



横山盆踊りは、7月第2日曜に横山神社境内で行われます。寛永5(1628)年に日向高岡の地頭・比志島国隆が種子島に遠島になると、妻の阿久根千代女は国隆のあとを追ひ、横山に住み着きました。しかし、そのことがばれてしまい国隆は死を命じられ、千代女も殉死しました。横山の人々は、2人の死を偲んで霊をまつり、歌と踊りを奉納するようになったことが盆踊りのはじまりです。

季節の見どころ

夏

太鼓山 市中を勇壮に練り歩く祭り

たいこやま

西之表市指定無形民俗文化財



八坂神社の祇園祭は、明治8(1875)年頃より始まりました。太鼓山は、編笠に白装束の若衆が、白鉢巻に白装束の少年と太鼓を乗せたやぐらをかき「チョッサー・サセサセ(長傘・させさせの意味)」という掛け声に合わせ、太鼓を打ち鳴らして市中を練り歩きます(八坂神社から王之山神社まで)。特に、途中甲女川を渡る「川渡り」が見どころです。現在は8月下旬、種子島鉄砲まつりと同日におこなわれます。

夏

西之本国寺盆踊 古い形態の盆踊り

にしほんこくじぼんおどり

南種子町指定無形民俗文化財



毎年8月16日、平野にある本国寺境内にて精霊様(先祖の魂)を供養する盆踊りが踊られます。踊りは、大太鼓、小太鼓、鉦、笛など楽器の演奏を先頭にして、踊り手が続いて入場します。踊り手が円を組み踊り、楽拍子は円の中央で踊ります。踊り手は、「カンモク」という仮面をつけ、先祖の霊の化身となり踊ります。盆踊りは、先祖供養の踊りのため賑やかさはありませんが、静かで奥ゆかしい古風な踊りです。

夏

屋久島の如竹踊り

やくしまのじょちくおどり

県指定無形民俗文化財



如竹踊りは、安房出身の儒学者・泊如竹の没後に、如竹を慕った安房の人々が創作したものです。片手に日の丸の扇子を持ち、輪になって踊ります。如竹は、屋久杉の利用を可能にしたり、如竹堀(用水路)をつくったりと、経世済民に尽力しました。如竹の命日である旧暦5月25日に、県指定史跡にもなっている「泊如竹の墓(如竹廟)」の前で踊りを奉納しています(屋久島1日周遊!史跡巡りコース参照)。

季節の見どころ

秋

安納棒踊 気迫ある棒踊り

あんのうぼうおどり

西之表市指定無形民俗文化財



明治時代初め、加治木から安納軍場に移住してきた大工の石野政蔵氏により伝えられた踊りです。示現流(薩摩藩に伝わる剣術)の流れをくむものといわれています。棒踊りは種子島各地で踊られますが、いずれも鹿児島より明治以降に移入してきました。安納棒踊は、一糸乱れぬ太刀さばきが美しいです。現在は、10月第3日曜に安納神社で、第4日曜に軍場大山神社でおこなわれています。

秋

古田獅子舞 大分から伝えられた舞

ふるたししまい

県指定無形民俗文化財



明治時代末に、大分県から椎茸栽培のために古田へ移住した、川野氏と石井氏が教えた踊りです。獅子と天狗の戦いに猿を交えて、大太鼓・小太鼓・横笛などで囃し立てて踊ります。歌詞は無く、ところどころで「ホース」という掛け声をかけることが特徴です。大正3(1914)年、大正天皇御即位記念として古田豊受神社で初めて披露されて以来、毎年奉納されています。現在は、10月第3日曜に古田豊受神社でおこなわれています。

秋

西之表市の面踊り

にしのおもてしのめんおどり

県指定無形民俗文化財



ユニークな面を使った踊り

もともとは旧暦9月24日に、現在は10月の第3日曜日に深川神社に奉納される踊りです。古くから伝承されていた面をかぶる踊りに、江戸時代初め頃に伝来したひょうたん踊り(踊り子が腰にひょうたんをぶら下げて踊るもの)が一つになり、できたと言われています。同じ系統の踊りは、島内では「ひょうたん踊り」と呼ばれていますが、面をかぶるのは深川のみで「めん踊り」と通称されています。行われる時期から、豊年を感謝する踊りとされています。

季節の見どころ

秋

源太郎踊り 全島に分布する踊り

げんだらおどり

西之表市指定無形民俗文化財



源太郎踊りの発祥は住吉で、住吉から種子島各地へ広まったといわれていますが、いつ誰によって住吉に伝えられたか由来は分かっていません。踊りは、10月第4日曜の住吉神社大祭で、6年に1度、奉納されています。歌詞や踊りから見て、室町時代から江戸時代初期にかけて種子島へ伝わり、太鼓踊りの影響も受けて根付いたものといわれています。歌詞は7節からなり、それに伴い隊形、楽拍子などそれぞれ異なった多様な変化をもった踊りです。

秋

湯泊笠踊り 笠を持って踊る伝統ある踊り

ゆどまりかさおどり

屋久島町指定無形民俗文化財



提供：公益財団法人屋久島環境文化財団
屋久島環境文化村センター

湯泊笠踊りは、江戸時代末期から明治時代初期に、湯泊海岸に漂着した糸満人(沖縄人)が教えたといわれる踊りです。2人1組となり、青壮年・学生が踊ります。各自「ハッコヨ笠」を持ち、左右に入り混じって踊る勇壮な踊りです。湯泊神社の大祭は、旧暦12月15日に行われていましたが、昭和35(1960)年以降11月23日の勤労感謝の日に湯泊神社境内で奉納されるようになりました。

冬

西之表檜林神社の大的始式 大的を射て災難払い

にしのおもてせいらんじんじやのおまとはじめしき

県指定無形民俗文化財



第12代島主種子島忠時が、明応9(1500)年に弓の指南役として招いた武田筑後守光長が、翌年に宮中で行われる御的始式を模したことが始まりです。毎年1月11日18時から、檜林神社弓場でおこなわれます。大的を射て、その年の災難などを払い清め、島内の平安や無病息災を祈願します。射手は2人組3番6射の36本からなりますが、35本の矢が命中すると「満つれば欠くる」の戒めにより、最後の1本は故意に外します。

季節の見どころ

冬

南種子町平山の蚕舞 小正月の来訪神行事

みなみたねちようひらやまのかあごまあ

県指定無形民俗文化財



1月14日、15日の夜、白い頭巾などで顔を隠し、着物姿で女装した地域の青壮年と子どもたちが各戸を訪問し、蚕舞を踊る小正月行事です。もともと蚕舞は、養蚕が盛んになるように島主が奨励したものといわれています。よって、歌の内容は蚕の成長の過程を詳しく表現しています。人々に養蚕技術を分かりやすく教えるという目的もあったようです。現在は、家内安全祈願や豊年を祝う行事として継承されています。

<参考文献一覧>

- 鹿児島県教育委員会「鹿児島県文化財調査報告書 第63集」(H29)
- 鹿児島県教育委員会「かごしま文化財事典」(H14)
- 西之表市教育委員会「西之表市文化財要覧」(S54)
- 中種子町教育委員会「中種子町文化財資料」(S58)
- 南種子町教育委員会「南種子町の文化財」(H30)
- 上屋久町郷土誌編集委員会「上屋久町郷土誌」(S59)
- 屋久町教育委員会「屋久町誌」(S39)
- 西之表市HP
- 中種子町HP
- 南種子町HP
- 屋久島町HP
- 鹿児島県教育委員会HP
- 文化遺産オンライン(文化遺産データベース)
- 現地説明板

